

県立篠山産業高等学校 令和5年度 学校評価結果

学校教育目標	令和5年度重点目標
<p>昭和8年の創立以来、校訓「自律 協調 不屈 創造」を教育理念として、各学科が特色ある4学科が、それぞれの持つ特徴を最大限に活かした教育活動を展開し、こころ豊かな人づくりを推進してきた。</p> <p>今日においても、複雑かつ困難な社会課題の解決や持続的な地域社会の発展に向けて、多様な学びから身につけた「知」を持ち寄り、「総合知」として活用し、新たな価値を生み出す創造性を有し、活躍できるような、「イノベーションを担う人財」を育てること、そして、ふるさとを愛し、他者と協働して地域課題に取り組み、地域に貢献できる「地域を担う『人財』」を育てること、さらに、社会や地域の様々な産業を担う「スペシャリスト」となる「人財」を育成することを学校経営ビジョン（使命）とするとともに、変化に対応できる「しなやかさ」と、たくましく生きる「強さ」を持ち、自ら主体的に学ぶ学習者として、「確かな学力」、「生きる力」を身につけた生徒の育成をめざしている。学校全体で、連携し、連動することで、「学校力」を向上させ、一人ひとりの生徒を大切に、「魅力ある学校」「信頼される学校」「地域ととともにある学校」となるよう取組みを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に貢献する。 ・一人ひとりの力を伸ばす授業の展開

学校関係者評価
<p>○令和5年度の重点目標・実践項目・年間まとめを拜読させていただきました。全体的に各部・各科・各学年の頑張りが見えるできばえとなっており、素晴らしいものだったと思います。敬意を表したいと思います。</p> <p>○従来の「産高ニュース」の展示だけでなく、学校全体としてのインスタグラムが開設されたことで、各担当を持たれている先生方が積極的に活用され、情報や魅力を発信されたことにより、さらに保護者や生徒、本校に進学を希望されている中学生等に向けてよりPRに繋がったのではないかと期待します。</p> <p>○できなかった事柄やその原因や悪さ加減などを考察する表現がもう少しあっても良かったのではないのでしょうか。</p> <p>○難しい面もあるかと思いますが、無理のない勤務時間で心身ともに健康な状態で生徒向き合えるよう取り組んでください。</p> <p>○例年行われている学校評価の取組、まことにご苦労様です。日々の取組の計画、実践、評価は非常に大切なことで高く評価されるべきことです。</p> <p>○机上の学習も大切ですが、地域の人とコミュニケーションを交わしながら活動するのたいへん意味があると思います（例：里山工房くも・・・お菓子、お花の販売等）。地域の人も若い高校生が活躍していることに喜びを感じておられると思います。これからも外へ出かけ、老若男女を問わずモノづくり等を通して地域との結びつきを深めてほしいです。</p>

学校自己評価結果（ A:よくできた B:できた C:少し改善が必要 D:かなりの改善が必要 ）

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価	昨年
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	HPや産高ニュースなど様々な方法により、日々の教育活動を効果的に発信しているか。	B	B
		PTA、同窓会との連携	PTAや同窓会との連携を密にし、協力体制を構築できているか。	B	B
	各部署間の連携	各学年と各科の連携	各学年と各科の連携を密にして、科を越えた学年としての指導ができているか。	B	B
		各科の連携	各科の間の連携を密にして、互いに協力し合える関係づくりをすすめているか。	B	C
	生徒指導	生徒指導体制の確立	生徒指導部と学年の連携を密にし、生徒指導が効果的に行われているか。	C	C
		生徒の内面理解にもとづく指導の工夫	いじめアンケートや個人面談等により、いじめの早期対応や生徒指導に効果をあげているか。	B	B
		生徒会活動の活性化	生徒会活動に、生徒が主体的に取り組んでいるか。	B	B
	進路指導	進路指導体制の確立	進路指導部と学年の連携を密にし、進路指導で成果を上げているか。	B	A
		キャリア教育の充実	総合的な学習の時間やLHR等で、生徒が主体的に自己の生き方なり方を考えることができているか。	B	B
		インターンシップの充実	インターンシップにより、望ましい職業観、勤労観が育成され、進路選択の一助となっているか。	B	A
	教職員の資質向上	実践的指導力の育成	日々の業務の中で、各部署、各教科でOJTによる指導力向上が図られているか。	B	B
		職員研修の充実	研究授業や授業公開、各部主催の研修が成果をあげているか。	B	B
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの整備	防災マニュアルはもとより、様々な危機に対応するマニュアルが整備できているか。	B	C
		家庭、地域、関係機関との連携	家庭、地域、関係機関との実効性ある協力体制が確立しているか。	B	B
		自ら命を守る意識の定着	登校時の立ち番指導や避難訓練等により、生徒に自ら命を守る意識を高めているか。	B	B
	勤務時間の適正化	定時退勤日、ノー会議デー、ノー部活デー	実効性ある取組となっているか。	C	C
ICTの活用		PCやネットワークを活用し、業務の効率化が図られたか。	B	B	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	授業改善の取組	主体的・対話的で深い学びをテーマに、授業改善がなされているか。	B	B
	基礎学力と学習習慣の定着	授業や補習等の工夫	わかりやすい授業、達成感のある授業や補習、宿題等の工夫がなされているか。	B	B
		評価方法の工夫	観点別評価等を工夫し、指導と評価の一体化による多面的な評価が行われているか。	B	B
	個に応じた学習指導の徹底	指導形態の工夫	習熟度別授業や少人数授業は、成果をあげているか。	B	B
		新学習指導要領への対応	教育課程編成の工夫	学科改編および新学習指導要領への移行に対応した教育課程が編成できているか。	B
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	教職員の協働により、総合的な学習の時間が生徒のキャリア発達に成果をあげているか。	B	B
	特別活動	計画的な実施	学校行事、ホームルーム活動が、計画性をもって実施され、成果をあげているか。	B	B
部活動の活性化		生徒の主体的な活動が、合理的かつ効率的・効果的に行われているか。	B	B	
課題教育	ふるさと貢献活動	各科の取組の充実	地域と連携した活動を通じて、生徒の自己有用感や地域を支えていく意識を高揚させているか。	B	B
		ボランティア活動の充実	学校行事や部活動を通じて、生徒の奉仕の精神を高めているか。	B	B
	特別支援教育	通級指導体制の確立	通級指導に対する教職員の理解を図るとともに、指導体制を確立しているか。	B	B
		支援体制の確立	特別な支援が必要な生徒に対して、支援体制が確立しているか。	B	B
	人権教育	人権意識の高揚	学校教育全体を通じて、日常的また計画的に生徒の人権意識を高揚させているか。	B	B
グローバル教育	外国人との交流	外国からの教員や生徒を積極的に受け入れ、生徒の国際的な視野を育成できたか。	B	B	
勤務実態	働き方改革	学校としての取り組み	学校として働き方改革に取り組んでいるか。	B	
		個人としての取り組み	個人として働き方改革に取り組んでいるか。	B	

A ≥ 3.3 3.2 ≥ B ≥ 2.5 2.4 ≥ C ≥ 1.6 1.6 > D